



手良小学校
だより

きらら

令和4年8月19日

No.5



学校HP

86日間の2学期スタート…始業式が行われました

およそ1か月ぶりに、手良小学校に子どもたちの元気な声が響きました。新型コロナ感染拡大で地区行事やプール開放の中止・縮小が相次いだ夏休みでしたが、それでも夏休みにしかできない体験をして、一層たくましくなった気がします。

19日に始業式が行われました。新型コロナ感染対策として、校長室から各教室へオンライン形式で行いました。3、4年生の代表児童の2人からは、一月後に迫った音楽会の発表を頑張ること、授業中の発言を増やすことなど、これまでの反省を踏まえながら2学期のめあてを発表してくれました。

その音楽会を前に、校長先生からこんなお話がありました。(一部省略しています)



「一つだけの音」

みなさん、おはようございます。楽しい夏休みを過ごすことができましたか？

今日から2学期が始まりました。この学期は、音楽会や秋の自然に親しむ日、親子ふれあい活動など、楽しみな行事がたくさんあります。健康に気をつけて、笑顔で生活ができるようにしていきましょう。まずは、約1ヶ月後、9月16日の音楽会のことが、みなさんの目標になっていきそうですね。これから毎日、みなさんのすてきな歌声や楽器の音が聴けることを楽しみにしています。

実は、今日、ある楽器を持ってきました。シンバルです。(実際に鳴らして)大きな音がしますね。今日は、このシンバルのお話です。

ドヴォルザークという音楽家を作った交響曲の一つに、「新世界より」という曲があります。この曲は、全部で4つのまとまりでできていて、全部演奏すると、だいたい45分かかります。1時間目の授業が全部終わってしまうくらい長い曲です。

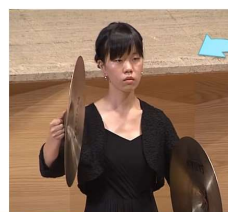
この曲の中で、シンバルの出番は1回だけです。

一番最後、第4楽章が始まって2分くらい経ったところで、たった1回鳴らすだけです。では、オーケストラが演奏している映像がありますので、第4楽章を見てみましょう。シンバルの出番に注目してみてくださいね。

【オーケストラ映像はこちらのQRコードからご覧いただけます】



わかりましたか。とても静かな全体の演奏に溶け込むように、そっと鳴らしていましたね。このシンバルを演奏した人は、これでこの曲の仕事が終わります。でも、この1回のシンバルの音がないと曲になりません。だから、シンバルを担当する人は、第4楽章までずっと緊張を切らさずに持ち続けて、この1回の音に全てをかけるのです。見てください。この真剣な表情。指揮者を見つめる目。



実際にこの曲でシンバルを担当した人の話では、最初からずっと、シンバルをたたく位置に構えているそうです。そして、「シンバルを持つ手の位置はこれくらいかな。」「右手や左手の力はこれくらいかな。」「静かに合わせるぞ。」などいろいろな事を考えているそうです。ステージに上がって30分以上、この瞬間のことだけをずっと考えているわけですから、凄い集中力と精神力が必要でしょうし、すごいプレッシャーもかかると思います。

みなさんは、このシンバルのように出番が1回という人はいないかもしれませんが、出番

の多い人も少ない人も、みなさんが出す音は一つだけの音、自分だけの音なのです。それが全てそろって、初めて合奏や合唱になります。一人ひとりが、出番じゃないときも集中して友達の音や声を聴きながら、自分の出番や役割をしっかりと果たせたとき、素晴らしい演奏になるのだと思います。全員ですてきなハーモニーを響かせてください。みなさんの演奏を聴くことができるのを楽しみにしています。がんばってください。

「歯と口の健康づくり」をテーマに、学校保健委員会



まず、歯科検診や歯科に関する実態調査【結果はこちら→】の報告がありました。この2年むし歯があった児童は20名前後でしたが、今年は8人。「歯と口」に関わる取り組みの成果は徐々に表れてきています。



歯の調査

一方で、磨き残しの多さも課題となっています。「磨いたつもり」でも、実はまだ不十分なことも。高学年になるにつれ、仕上げ磨きから卒業していくわけですが、保護者の皆さんの確認は是非お願いしたいといった話もありました。「歯って大事なものだよ!」…歯を大切にする親としての姿勢から、子どもが感じとれるといいですね、と歯科衛生士さんにご助言をいただきました。

学校歯科医・茂木先生のご講演では、2年前ご着任いただいてから、これまでの取り組みについて振り返っていただきました。先生にご助言をいただいている「足育、息育、歯育、食育」の4点の実践を通して、子どもたちが生涯を通して自らの健康づくりに向き合えるよう、今後も支援していきます。

地域の医療関係の皆様、そしてPTA子育て部の皆様、ご出席ありがとうございました。

万が一に備えて…夏休みの職員研修

◆救命救急法(心肺蘇生とAEDの使用)講習

高遠消防署職員をお招きし、心肺蘇生に関する講習を受けました。119番の通報から何もしないで救急隊を待つのに比べ、適切な処置をするのでは、命を助けられる確率は2倍以上上がるそうです。

しかし、心臓マッサージは正しく行わないとやっても効果は期待できません。力を加える位置、腕の角度、押し込みの深さなど、いくつかのポイントを理解しました。通報から救急隊に引き継ぐまで、平均で9分間。いざというときに備えます。

◆不審者対応訓練

不審者侵入時に備え、実技をメインに訓練を行いました。

伊那警察署2名の方から教わったことは、まず、不審者の様子を観察すること(異常性がどうか?所持品は何か?など)、対峙する際は、さすまたなどを使って相手との距離を保ち、不審者を捕まえるというより、追い返すことなどです。さすまたは使い方を間違えると、逆に押し込まれてしまうこともあるそうです。職員間の連携も大切であることがわかりました。



詳しい9月の予定と下校時刻は、こちらからどうぞ →